

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	志波姫町立志波姫小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	23
児童数	58	57	62	64	68	77	8	394	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着を目指す指導の工夫
算数科における学習意欲を高める指導法の改善を通して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・1年生～6年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科であることと、平成14年度 宮城県「少人数指導等の調査研究協力校」として取り組んだ研究成果を生かすため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究テーマ 確かな学力の定着を目指す指導の工夫 算数科における学習意欲を高める指導法の改善を通して</p> <p>研究の見通し 算数科における学習意欲を高める指導法を以下の3つの手だてにより改善していけば、児童に確かな学力を定着させることができると考えた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて1 教材・教具の開発と工夫 手だて2 指導方法・指導体制の工夫 手だて3 評価の工夫</p> </div> <p>研究の内容・方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて1 教材・教具の開発と工夫</p> </div> <p>以下の6点を意識した教材・教具の開発と工夫に取り組む。 (1) 学習への興味・関心をもたせるための教材・教具 (2) 学習への意識を集中させるための教材・教具 (3) 学習への意欲を持続させるための教材・教具 (4) 数量、図形の豊かな感覚を育てるための教材・教具 (5) 思考を補助する教材・教具 (6) 発展的な学習や補充的な学習のためのプリント教材</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて2 指導方法・指導体制の工夫</p> </div> <p>(1) 指導方法の工夫 単元で身に付けさせたい基礎的・基本的事項の洗い出しを行い、それらの定着を目指して単元の指導計画や1時間の指導過程を工夫する。 (2) 指導体制の工夫（TT指導、少人数指導） 単元の特長、単元内の指導段階の特性、子どものレディネスや発達段階を考慮した指導体制の工夫を図る。</p>
--------	--

手だて3 評価の工夫

- (1) 評価計画と評価規準の作成
指導法改善のための達成状況の的確な把握を目指して、単元の評価計画と評価規準を作成した。単元で身に付けさせたい基礎的・基本的事項と評価規準との対応を図り、1つの単元の中に評価の4観点を網羅するようにした。
- (2) 多面的な評価の活用
評価計画と評価規準に基づいた単元の評価補助簿を作成し、毎時間の評価規準の達成状況、よさや可能性、努力点、進歩の状況等を記入し、今後の適切な支援を工夫したり、教師側の指導の見直しを図るために活用する。
子どもの自己評価能力を高めるために、本時学習で分かったこと、自分の取組みの反省、授業の感想等を子どもの発達段階を考慮した方法で記入させる。

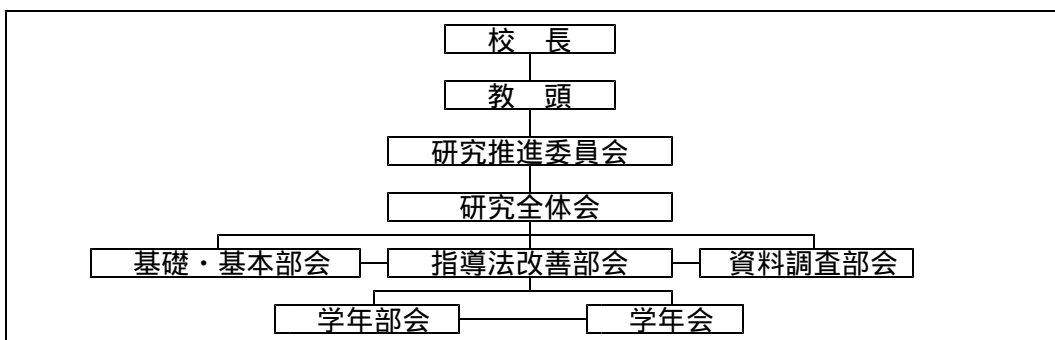
授業実践やCDT調査で、3つの手だての有効性を検証する。

テーマ 学びの質を高める指導法の工夫（仮称）

平成16年度

- 研究の見通し
本年度の研究を深化・充実させるとともに、他教科での活用へと発展させる。
- 研究の内容・方法
(1) 本年度の研究を基盤とし、改善を図るとともに、研究の成果をCDT等の調査で検証する。
(2) 国語、理科等の指導法改善の方向性を探る。

(3) 研究推進体制

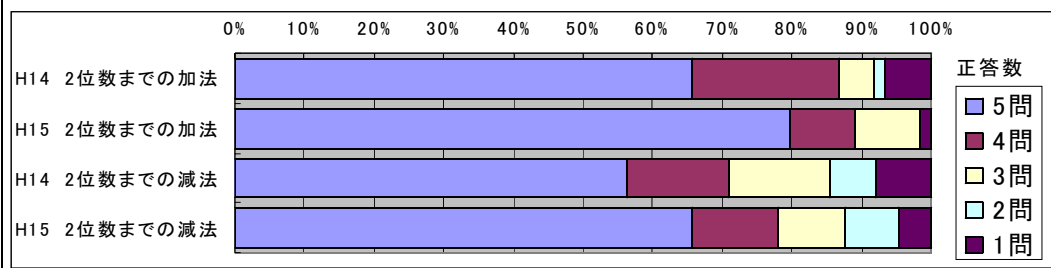


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 1 児童の意識調査より
 - (1) 算数の学習について
算数学習への意識については、「勉強が好き」よりも「算数が好き」のほうが数値が高い傾向（全体の8割以上）にある。
また、「勉強が大切」よりも「算数が大切」のほうが数値が高い。（全体の9割以上）このことから、算数が他の勉強よりも好きであり、大切であると思っている児童が全国の調査（平成13年度教育課程実施状況調査）と比較しても高い。
 - (2) 少人数指導等について
少人数指導等への意識については、少人数指導（全体の約9割）、TT指導（全体の約8割）ともに、多くの児童から受け入れられている。
- 2 計算力定着度調査より
第1回目（平成14年、12月）と第2回目（平成15年5月）を比較すると、どの学年も定着度がおおむね伸びている。

例 現3年生の計算力定着度調査より



2. 今後の課題

- 1 算数科における単元や学習内容，児童の実態に応じた，より効果的な指導体制を工夫すること。
- 2 算数科におけるより客観性の高い評価を目指して，評価規準，評価方法，評価場面の見直しを図ること。
- 3 算数科での研究の成果を生かし，他教科の指導法改善に発展させること。

学力等把握のための学校としての取組

1 児童の意識調査

- (1) 調査目的
算数学習・少人数指導等に対する意識と，算数学習への意欲を把握し，今後の指導を行う際の資料とする。
- (2) 調査対象
1年生～6年生
- (3) 実施時期
平成15年7月（平成16年度以降4月実施予定）
- (4) 調査方法
算数学習に関する17項目，少人数指導等に関する5項目についての選択式。
（低学年は，選択肢2つ，中・高学年は，選択肢4つ）

2 CDT調査

- (1) 調査目的
平成14年度の標準学力調査を分析して，児童の既習内容に関する到達度状況を把握し，今後の指導法の改善に生かす。
- (2) 調査対象
1年生～6年生
- (3) 実施時期
平成15年2月（毎年2月実施予定）
- (4) 調査方法
平成14年度学習内容についての標研式観点別学力到達度診断調査

3 計算力定着度調査

- (1) 調査目的
個人差の大きい「数と計算」領域について，児童の計算力定着度を診断し，個に応じた補充・支援などの指導を行う際の資料とする。
- (2) 調査対象
1年生～6年生
- (3) 実施時期
平成14年12月，平成15年5月
（毎年5月…2年生～6年生，1年生…12月実施予定）
- (4) 調査方法
「数と計算領域」についての自校作成の同一問題

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 自主公開研究会の実施
県内の小・中・高教員，本校PTA会員，本町幼稚園教諭を対象に算数の授業公開を行い，全体会・分科会で実践研究の成果を発表し，助言者から指導を受けた。【実施日：平成15年10月8日】
- 2 リーフレット（研究概要）の作成と自主公開研究会での配布
- 3 ホームページの開設
平成15年1月にホームページを開設し，研究内容について紹介をしている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無